終章　公開授業「彦根城と膳所城の近代」を振り返って
―生徒・教員アンケート結果より―

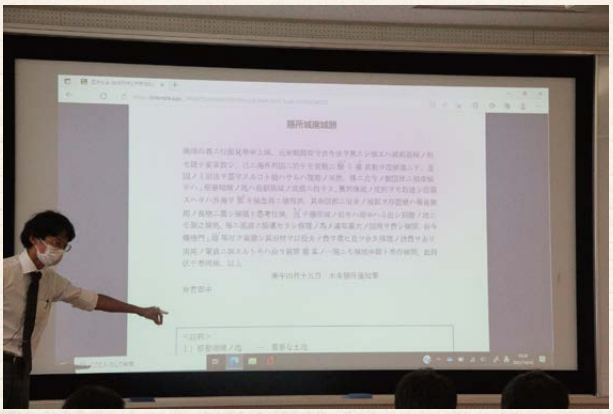
滋賀県教育委員会　久保田重幸

令和4年（2022）10月、滋賀県立膳所高等学校において、公文書館所蔵資料活用公開授業およびシンポジウムが実施された。本章では、公開授業の成果と課題について、授業後に実施された生徒および教員アンケート結果をもとに、振り返りたい。

1 企画の概要について

まず、企画の概要については、以下の通りであった。

名称：公文書館所蔵資料授業活用研究会
　　第1回公開授業およびシンポジウム
日時：令和4年10月5日（水）13:20～15:20
会場：滋賀県立膳所高等学校視聴覚室
主催：滋賀県立公文書館、滋賀県教育委員会
参加：県内の高等学校・中学校教員ら45名
内容：
【公開授業】13:20～14:10
単元・内容：富国強兵と文明開化「彦根城と膳所城の近代」（「歴史総合」1年9組）
授　業　者：山本茂雄（県立膳所高等学校）
【シンポジウム】14:20～15:20
テーマ：歴史学習等における公文書館所蔵資料の活用について
登壇者：宮坂朋幸（大阪商業大学）
　　山本茂雄（県立膳所高等学校）
　　七里広志（草津市立老上中学校）
　　大月英雄（県立公文書館）
司　会：武原正樹（高校教育課）



7-1　公開授業で公文書館資料を説明する山本教諭

7-2　シンポジウムの様子

2 生徒のアンケート結果から

次に、授業後の生徒アンケート結果については、16頁の表の通りとなった。

問1では、公文書館の認知度について尋ねたが、残念ながら95%の生徒が「初めて知った」とのことであった。その一方、問2「公文書館所蔵資料を用いたことで、「滋賀県」に興味をもつことができた」の肯定的回答（1と2の合計）は89%、問3「公文書館所蔵資料を用いたことで、今回の学習に興味をもつことができた」の肯定的回答は95%と、それぞれ高い数値となった。また、生徒の記述式回答の中には、以下の内容がみられた。

・滋賀県と国や、郡の間でも文書の交換や交流があったという実感が湧き、面白かった。
・授業で扱う歴史的資料の現物の写真が見れて、興味がより湧く。
・読み取りを楽しみながら授業に取り組めた。
・実際の歴史だという事がわかりやすい点（が良かった）。
・実際の資料をみることで、教科書に書いてあるだけでは読み取れないようなことも伝わってきた。

公文書館所蔵資料という「リアリティ」が生徒の歴史に対する「実感」を呼び起こし、一定の生徒の興味・関心やわかりやすさを促していることがわかる。ただ、問4「公文書館所蔵資料は、わかりやすかった」では否定的回答（3と4の合計）が33%みられた。生徒の記述式回答によると、以下の内容がみられた。

・言葉が難しくて何が書いてあるのか分からなかった。
・資料だけ見ても内容の理解が難しい。
・読みにくいため物事の概要しか読み取ることができない。
・だいたいの要約が日本語でまとめられた資料があれば欲しい。それでより理解を深めることができると思う。

本授業では、生徒に、公文書館所蔵資料の写真資料と翻刻文が提示されたが、読みにくさ、わかりにくさを感じる生徒も少なくなかった。今後は、資料の読み方に関する指導、現代語訳の提示、1授業時間に取り扱う資料の精選について検討する必要がある。

3 教員アンケート結果から

一方、参観教員アンケートの主な記述式回答は、以下の通りであった。

・日頃の授業から史資料に触れさせて読解させたり、歴史について生徒の興味を刺激する取り組みを重ねてこられた成果であると感じました。公文書館所蔵資料は高校生には難しすぎるのではと考えておりましたが、教師側の工夫でいかようにも活用できるのだと実感しました。
・実物の史料の写真を見て、自分で史料を解読し、生徒が歴史を味わっているようにみえました。
・知識の習得が目標ではなく、知識を生かして思考し学ぶ授業の面白さを見せていただきました。
・公文書にある漢文中心の記載を読み解く力やそれができる環境づくりができれば、そこから「深い学び」に繋がっていくと感じた。
・深く読み解く時間や、文化財が保存されるべきか考える時間がさらに確保されたら、生徒たちがどのような考えを持つのか、気になりました。
・公文書館資料は行政の立場から作成された資料が多いので、行政以外の立場から記された資料も活用できると生徒の「多面的・多角的な考察」を促すことができる。

回答によると、公文書館所蔵資料の授業活用が「知識を生かして思考し学ぶ授業」や、今年度より高校で進行している学習指導要領改訂の趣旨「主体的・対話的で深い学び」に通じる、との意見がみられた。一方、考える時間を適切に確保することや、行政資料以外の資料を用いることで多面的・多角的な考察を促せることを指摘する意見もみられた。

表 授業後の生徒アンケート結果（37名対象）

問 1　今回の学習を通して、「滋賀県立公文書館」について初めて知った。

1	2	3	4
31 (84)	4 (11)	0 (0)	2 (5)

問 2　公文書館所蔵資料を用いたことで、「滋賀県」に興味をもつことができた。

1	2	3	4
9 (24)	24 (65)	3 (8)	1 (3)

問 3　公文書館所蔵資料を用いたことで、今回の学習に興味をもつことができた。

1	2	3	4
20 (54)	15 (41)	2 (5)	0 (0)

問 4　公文書館所蔵資料は、わかりやすかった。

1	2	3	4
9 (24)	16 (43)	10 (27)	2 (6)

問 5　今後も、学習で公文書館所蔵資料を使ってみたい。

1	2	3	4
10 (27)	17 (46)	8 (22)	2 (5)

※ 表中上段の数字は、いずれも以下の項目となる。
1　そう思う・当てはまる
2　どちらかといえばそう思う・当てはまる
3　どちらかといえばそう思わない・当てはまらない
4　そう思わない・当てはまらない

※ 表中下段の数字は「人数」を、括弧内の数字は「%」をそれぞれ表している。

3 まとめ

最後に『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史編』では、「文化遺産、博物館や公文書館、その他の資料館の調査・見学などを取り入れることで、実物や複製品などの資料と接して、具体的で多様な情報を得て歴史の考察を深めさせることができる」（p.188）ことが明記されている。本授業は、まさにその仮説を具現化した実践であり、「具体的で多様な情報」を用いて、生徒一人ひとりに「歴史の考察を深めさせることができる」公開授業となったといえる。

なお、中学校における公開授業については、令和5年2月に近江八幡市立八幡中学校で実施した。